

1.教育目標

- ・人や何に対しても感謝の心を持てるこども
- ・自分のあやまちを素直に認め、謝れるこども
- ・他人のあやまちを素直に許せるこども
- ・いろいろな事に興味を持ち、学究するこども

2. 目標達成のための本年度の重点

- (1)豊かな自然環境の中や人々との交流の中に神様の恵みを感じ、感謝する心を持つ。
- (2)「ありがとう」感謝、「ごめんね」お詫び、「いいよ」赦しの心を育む。
- (3)五感を通して様々な体験をして豊かな感性を育み、仲間と共感する喜びや感動を味わう。

3. 評価項目の達成状況

評価項目	結果	理由
教育内容・環境の充実と計画性	3.7	○感染症対策をした上で都度行事・保育の見直しを行なう。幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を目指した保育計画を心掛けて、教育・保育を実践する。 ○昨年と同様に活動が優先でねらいが後手になりがち。建学の精神・経営計画・カリキュラムと日々の保育が連動させるよう努めた。 ○環境の充実に時間が掛かるが全職員で助け合い整えて行く。
保育の充実と園児との関わり	3.8	○コロナ対応により保育内容や行事の精選に努め、必要な見直しを行いながら保育の充実を努める。個性豊かな児に対して個性を尊重しながら丁寧な関わり方をする。 ○縦割り保育と年齢別保育の割合の見直しを図り、日々の保育を縦割りに重きを置くようにする。園児同士の助け合いが増えた。特に2歳児のスムーズな進級を行う為の取り組みを実践した。
安全管理	3.9	○月に1回防災訓練を確実に実践し職員と園児の防災意識が高まる。今年度新たに『河川が氾濫の避難』と『雪害による停電』の防災訓練を行ない気づきが広がった。 ○園バスの置き去り事故を受けてマニュアルの見直し、コドモンと目視による登降園管理を徹底する。非常時にバスのクラクションを鳴らす訓練も行ない効果があった。 ○小さい怪我が多いが大きな怪我にならないよう対策を心掛けた。
地域の幼児教育機関としての役割	3.5	○留辺薬自治区の乳幼児が少なく、未就園児教室への参加者も少ない。少ない中でも保育を充実させてブログで発信している。継続していきたい。 ○子育て支援講座は『食育』『英語』『絵本』をテーマに年3回対面で行う。内容は充実していたが参加者は4～5名と少なめ。日程の検討や呼び込み施策など検討が必要。 ○コロナ禍で地域との関係が希薄になりがち。散歩での声掛け等可能な限り行う。
教員の資質・能力向上	3.8	○園外研修はコロナの影響で限られているが市内で行われた研修(特別支援・虐待・給食)には職員を派遣し情報共有した。zoomによる研修は積極的に受講する。 ○園内研修は計画に基づき実践する。時間の確保は課題だが短くても行使した。内容はカトリックの精神・モンテッソーリ教育・特別支援・保育の実践交流等。 ○園内での公開保育を行う事で園内で互いに学び合う土壌が出来た。
保護者との連携	3.9	○必要な連絡は周知文やマチコミでメール配信で伝える。今年度はコロナ感染症の緊急連絡が多かったが、メールで早目の段階で保護者に周知出来たのは良かった。 ○保護者アプリ『コドモン』の導入により連携が取り易くなった。 ○3年ぶりに対面でクラス懇談を行う。ブログで日々の園の様子はまめに伝える。 ○3学期に保護者アンケートを取る。今年の振り返りと次年度の課題に反映させる。

※結果の表示方法 4 十分達成されている 3 やや達成されている 2 あまり達成されていない 1 取り組まれていない

4. 令和4年度の総評

結果	理由
3.8	○カトリック学園研修の園の取り組みは「神様からのプレゼント」。3歳以上児は園生活の中で神様からの恵み(プレゼント)を見つけた園児の写真を撮影し掲示していく事で共感を得る事が出来た。3歳未満児は家庭で宝物(我が子)の写真とコメントを入れたカードを作成していただき、集会で紹介する。保護者を巻き込み園でも家庭でも共有出来た。 ○コロナ対策により行事変更が多かった。変更する事で園児のモチベーションを保つ難しさがあった。運動会はスムーズに出来たが、その後職員や園児の感染により7月後半以降から2学期全般に掛けて行事変更・見直しが多発した。生活発表会は予定の1ヶ月後になったが保護者の協力と保育の立て直しにより児の自信が深まり、結果より良いものが出来た。 ○コロナ対応には苦慮したが対応があった事で何がが必要か必要でないか見極めをしていく機会となった。 ○年度の途中で職員の退職、転勤があり、職員配置状況が変わり苦慮したが、職員が協力的で助けられた。

5. 来年度に向けての課題

- ・カトリック、建学の精神、モンテッソーリ教育を学び、理解を深める。
- ・入園募集に向けての取り組みを年間通して実践し、子育て支援を充実させる。
- ・3歳未満児と3歳以上児の園児や教職員の交流を深め、情報を密にする。
- ・コロナの影響で減少した地域との関わりを取り戻し、広げていき、充実させる。
- ・異国文化の理解を深め、国際社会を意識した教育を実践する。
- ・特別支援児への丁寧な関わりと家庭への寄り添いを行い安心して保育を受ける体制作りをする。
- ・コドモンを有効活用し、保護者との連携を深める。